



平成26年7月1日(火)発行 【隔月(年6回)発行】

発行部署 : ソリューション営業本部ソリューション営業部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4620
発行責任者 : 白土 雄二郎
お問合せ窓口 : 芝 啓彦

第112号

【目次】

1. ダイバーシティ推進Gr発足について
2. 2013年度省エネ実績について
3. MCLC事業系基幹システムの再構築がスタート
4. 運輸システムEXPO 参加レポート
5. 場所紹介 ～西日本営業部営業課(栗東市)の巻～
6. LIFEによる物流改善提案のご紹介 ～保管に関する改善編～



1. ダイバーシティ推進Gr発足について

当社は、企業競争力を高め、厳しい環境下を勝ち残るためにも、多様な人材を受け入れ、その能力を最大限に活かすことを目指し、4月1日付で、本社人事部内に女性4名男性1名による『ダイバーシティ推進グループ』を設置いたしました。

人材の多様化という観点から当社の現状を見ると、とりわけ「女性の活躍推進」が早急に対応すべき課題と考えています。女性の活躍推進に関しての会社や職場の意識は、社会の変化の中で、ここ数年で改善されてきていますが、社会慣習や労働慣行により、結果として女性の能力が埋もれてしまっているという現状もあります。女性社員の潜在的パワーの発揮を通じて、組織全体の力を最大化するため、当面の取組みとして、特に女性社員の活躍をより強力に推進する事としました。

もちろん、「ダイバーシティ推進」とは、決して女性社員をただ優遇しようというものではありません。個々の社員の持つ多様性を認め、個性を活かし、個々の能力を発揮できるような会社とする事で、会社の成長や発展、社員の幸せを実現していきたいと考えています。個々の社員が持つ様々な環境や価値観を受け入れ、今まで制約ともなりがちであったこれらの要因を、発想を転換する事で特徴と位置付け、その特徴を活かしたマネジメントを行う事で、既成の概念を取り払い、積極的・効果的な人材活用を実現していきたいと考えています。

そして、このような取組みが創り出す多種多様な新たな価値観が、社員のモチベーションを上げ、様々な環境の変化に柔軟に対応する組織を生み出し、会社が成長・発展する礎となっていくと考えています。会社が成長するためには、社員一人ひとりの力が不可欠です。そして、その社員一人ひとりには個性があり、異なったバックグラウンドがあります。社員がその能力を十分に発揮出来るよう、当社は、新たな働き方の価値観を、社員と共に創りたいと考えています。



ダイバーシティ推進Grメンバーの皆さん

2. 2013年度省エネ実績について

当社は特定荷主(※) 様への報告用や3PL事業者としての省エネ推進及び自社の省エネ活動推進の為に、輸送におけるエネルギー使用量を算出するシステムを構築し運用しております。

この度2013年度の当社エネルギー使用実績がまとまりましたので掲載致します。

まず、全体の原単位については対前年比で1.53KL/百万トンキロ改善されました。部門別に原単位を見ますと、トラックが対前年比で10%向上、内航船は2.3%悪化しております。

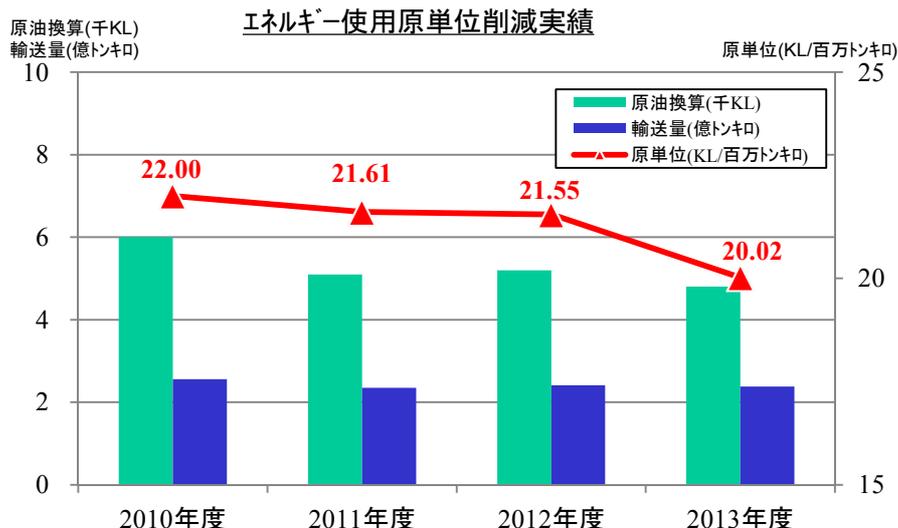
この主要要因ですが、

①陸運部門については、トラックの輸送量が減少した影響もありますが、トラックからJR貨物へのモーダルシフト推進及びトラック積載率向上を図ったことが、影響していると考察しております。

②海運部門は、ロットアップ及び省エネ船の運航に取り組みましたが、一部の貨物の輸送量が減少したことにより小ロット運航となり、原単位が悪化したと考察しております。

今後も原単位の向上を図るべく、今年4月から運用開始したJR貨物専用枠を活用しモーダルシフトを加速させ、環境・省エネ活動に取り組んでいきたいと思っております。

※年間輸送量3000万トンキロ以上の荷主。



3. MCLC事業系基幹システムの再構築がスタート

当社では、この4月から事業系基幹システムの再構築に着手しました。

これまで各事業部毎に個別に運営していたシステムを統合し、情報の共有・可視化を進めていくと共に指標管理の推進、顧客サービスの向上、安全QA向上を支援する仕組みの構築を目指します。

顧客対応力強化のために必要なのが現場管理レベルの向上であり、積載効率や車両稼働率を正確に計上し改善策を立案するなどの指標管理を改善させます。また、バーコード(QRコード)システムやトレーサビリティシステムを導入することで、機能品管理や危険品管理などのQA管理を強化し荷主様やお客様のニーズに応えます。そしてそれらの情報を共有することが容易になる点も新システムの大きなポイントで、荷主様や協力会社との情報連携がスムーズになり、業務の効率化につながります。

2017年度中の完成をめざし、各事業部の選抜メンバーおよび情報システム部を中心に、グループ企業のITベンダーである菱化システム社と共同でプロジェクト体制を組み、3つのステップに分け、あしかけ約4年の期間をかけて社員全員で取り組んでまいります。



4. 運輸システムEXPO 参加レポート

2014年5月28日～30日までの3日間、東京ビッグサイトで開催された「運輸システムEXPO 2014」に参加してきました。

本展示会は運輸業界における新規顧客開拓と市場拡大を狙い、様々なハード・ソフト面から安全運行、運行管理・サービス向上を目的とした物流会社やソフトメーカーなどによる、物流のシステムに特化した展示会です。また各社からのセミナーも開催され30社が出展し、3日間の来場者数は45,000人にのぼりました。

携帯電話・スマートフォンのGPS機能やバーコード読み取り機能を活用した配達車両位置情報の取得、お客様のお荷物の配達状況をリアルタイムに提供できるシステムなど、昨今の物流業界はタイムリーな情報を荷主様・お客様・物流会社のそれぞれが共有化する事を求められています。

また物流機器管理に有効的なRFIDや居眠り防止システム、衝突防止支援システムなど様々なシステムを実際に操作、体感もしました。

なお今回の開催は、「ワイヤレスジャパン2014」「ワイヤレス・テクノロジー・パーク2014」と同時開催しており、この3展が同じ会場で開催される事で「タイムリーな情報」と「ワイヤレス」をキーワードに、様々な最新技術を見る事ができました。

現在当社は事業系システムを再構築すべくプロジェクトを立ち上げた事もあり、今後のシステム構築に役立てればと思いました。



5. 場所紹介 ～西日本営業部営業課(栗東市)の巻～

当部署(駐在)は、2010年5月に開設し、滋賀県南東に位置するA社に駐在(3名)し、荷主様の製品輸送管理をしております。

A社は、京都に本社、滋賀に2工場あり、栗東工場がメインです。

当社が元請けして5年目に突入する今期は、更なる物流コスト削減に向け日々邁進中です。

■近隣(栗東市、草津市)紹介

□栗東と言えば、競馬の代名詞であります、競走馬の栗東トレーニングセンターがあります。

事前予約(先着制)をすれば、トレーニングセンターを(有名調教師の厩舎など)見学できます。

□草津市は宿場町(本陣)であり、東海道と中山道の起点でもあります。

住みやすい街としてここ数年、人口が激増しています。

京都へ電車で25分、大阪は約1時間で行けますので通勤圏です。

琵琶湖まで数キロで行けますしサイクリングも楽しめます。

(琵琶湖一周約200kmあります。)

関西の観光といえば、大阪、奈良、京都が主流ですが、是非とも滋賀県へ寄ってみてください。



6. LIFEによる物流改善提案のご紹介 ～保管に関する改善編～

当社ソリューション営業部(LIFEグループ)の物流改善提案について、110号(2014.3.3発行)からシリーズでご紹介しておりますが、今回は『保管』というテーマでお届けしたいと思います。

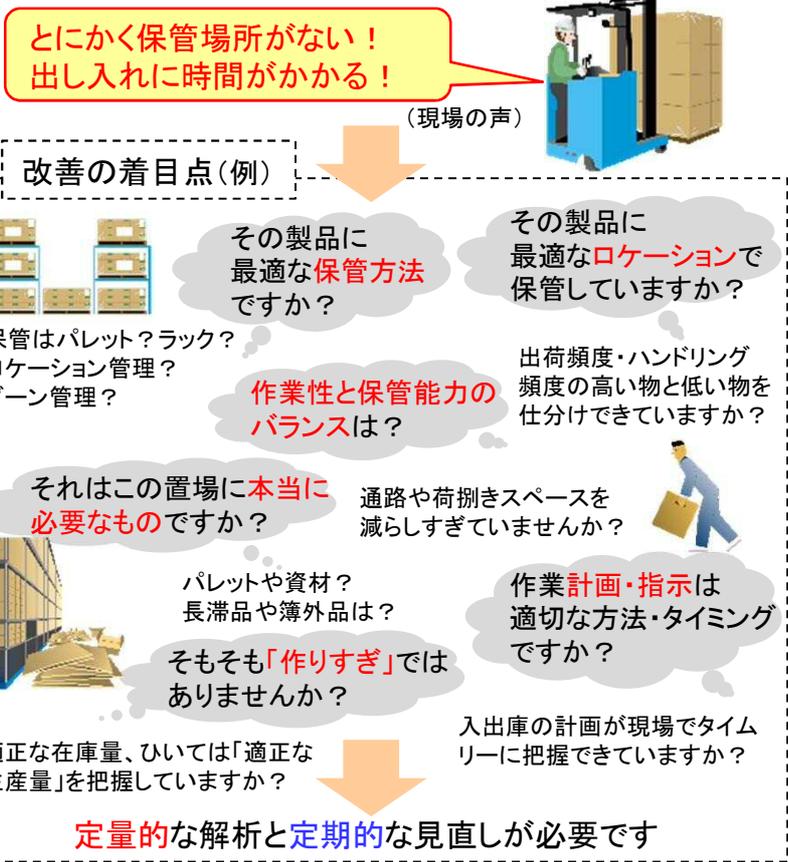
『保管』に関するお悩みとして最もよく耳にするのが「保管場所がない(足りない)」という内容です。例えば、「工場内に倉庫があるが、常にモノが一杯で、あふれた分を外部倉庫へ保管しており、コストが発生している」とか、「倉庫が一杯で、出し入れするのに時間がかかり、残業代が発生している」といった状況です。

『保管』の改善にあたっての着目点は多様です(右図参照)。

保管方法やロケーションの見直しは、作業者の感覚で“定性的”に判断せず、入出庫の作業時間や入出庫実績データを元に“定量的”に解析することが重要です。

その他に「保管方法やレイアウトは最適だが、さらに改善できないか?」という場合には、“作りすぎのムダ”で保管量が増えていないか、また、“計画・指示のムダ”で非効率な保管を行っていないか、といった点にも着目します。

どの様な改善提案でも、保管するモノの種類や動きは常に変化するため、“定期的”に(継続して)解析と改善に取り組む事も、大きなポイントと言えます。



夏のそよ風

ソリューション営業部 中村 健一

5月に異動で東京勤務を開始しました。今年は(今年も?)異常気象なのでしょうか。梅雨前に真夏日が続いた一方で、冷夏とも言われています。最近クールビズもありその方が快適かもしれませんが、蒸し暑い夏にビアガーデンや居酒屋で乾杯!というのがスカッとしますね。地球環境の変化により四季が失われていくのは残念な気がします。もっとも普段は“中食”ですので帰りに安い惣菜を買って、そして取って熱めの風呂に入ってよく冷えた缶ビールを一気に飲むというのが最近の至福のひと時です。夏はシャワーで済ます事も多いのですが…。ところが、週末に自転車で近所をひと回りすると立派な銭湯が幾つもある事を発見して少し驚きです。東京は都道府県別の公衆浴場密度で1番なのだそうです。銭湯で富士山の絵も見ながら広い湯船につかり体を癒した後に冷えたビールで喉を癒す。まさしく快適そのものですね。当社もKAITEKI物流を目指しています。個人から地球環境までいろいろなKAITEKIがあるのです。